

||||| センター事業団だより |||

メンバーの熱意と行動力が 地域のニーズと合致

山田 浩史（センター事業団・北陸開発本部）

前回この「センター事業団だより」を担当した際には、富山県の高齢者協同組合準備会の活動を紹介しました。そして月日が流れてあれから1年3ヶ月経ち、当時の高齢協準備会は、現在800名の組合員を組織し、「富山県高齢者・障害者福祉生活協同組合」として生協法人認可を受け、20人規模のデイサービス事業を始めています。

準備会のメンバーが十数人の97年頃から準備に携わってきて、なかなか進まない時期を体験しました。だからこそ、認可から事業開始に至るまでのスピードの速にただ驚いています。中心メンバーの熱意と行動力が地域のニーズと合致したからだと感じています。

また、開所から2年目を迎えた富山地域福祉事業所「ほびー」も、今年度から介護保険の訪問介護指定事業者としての活動をはじめました。デイサービスでは、四市町からの障害者デイケア事業の委託をうけています。配食サービスの事業委託も富山市から受け、行政からの委託を中心に事業規模は飛躍的に伸び

てきました。

それを支えてきているのは、高齢協と同じく、住みやすい地域をつくりたい、そこに関わりたいと思う様々な人たちがいたからだとして強く実感しています。私たちの事業や運動が、地域の必要性と合致した時は、こんなにも急激な変化を見せるのです。自分たちのことながら少々驚いています。

一方で、物流現場ではコストダウンによる業務縮小という厳しい状況が続いています。しかし、その中でも自前の事業として、ベビーシッター講座を開催しようと準備をしています。どんな事業であれ、地域の中で共通目的を持った仲間や協力者を組織することが、第一歩だと思い、そこから始めてみることにしています。

全国からの情報や北陸という地で私自身が体験し行ったことをもっと組合員に伝え、共有することで、既存事業だけにとどまらない北陸という地域全体を視野に置いたブロック本部にしたいと考えています。